シンポジウム「雨庭の制度化を考える」

世田谷・東京から内水氾濫対策としての雨庭実装を考える

【趣旨】

2026年の夏は関東で豪雨災害が頻発する年となりました。前年の2025年夏は大渇水でした。こうした雨の降り方の極端化は各地で起きており、地球温暖化の進行に伴って引き起こされる状況としてかねてより予測されてきたものです。これに対し、世田谷区では全国に先駆け、雨庭の性能を規定するなどの対策を取ってきました。国レベルでは2014年に「雨水の利用の推進に関する法律」が制定されましたが今日の水災の状況に対して有効な手立てとはなっていません。

日本建築学会では2011年に「雨水活用技術規準」を作成し、将来の豪雨対策として「蓄雨」という概念を提唱し、都市における土地利用として基本蓄雨高100㎜を目指すべき基準として示しました。その後、グリーンインフラやEco-DRR、NbS、流域治水、等の取組が始まり、雨水は官民問わずすべての主体が取り組むべき課題となりました。

しかし、民間敷地におけるオンサイト雨水対策としての「雨庭」は制度化の取り組みが始まったばかりです。世田谷区では住宅関連敷地が区の面積の約7割を占めており、いかに基準や制度などの仕組みを整えるか、その課題を洗い出し議論を交わしたいと思います。

【日時】2026年12月13日（日） 14:00～17:00

【会場】東京農業大学国際センター2Fカンファレンスルーム　定員50名

【開催方式】リモート併用(URLはリモート参加申し込みの方にお知らせします)

事前申し込み　URL又はQRコードから https://forms.gle/JWo9hdpakZcxoTN96

◆主催：SIP東京農業大学グリーンインフラ研究チーム

（＊SIP:内閣府戦略的イノベーション創造プログラム）

法政大学エコ地域デザイン研究センター

公益財団法人　雨水貯留浸透技術協会

◆後援：国土交通省京浜河川事務所

◆協力：世田谷グリーンインフラ研究会

＊問い合わせ先：suikei@jcom.zaq.ne.jp（神谷）






【シンポジウム】

14：00　開会挨拶／福岡孝則（東京農業大学教授）
14：05　挨拶：国土交通省京浜河川事務所長　山本浄二
14：15　趣旨説明／法政大学エコ地域デザイン研究センター　神谷　博

＜第一部＞「雨庭」をめぐる状況

14：20　話題提供１：「SIPグリーンインフラ研究：世田谷における流域スケールのグリーンインフラ実装に向けた課題と展望」／福岡孝則（東京農業大学教授）
14：40　話題提供２：「雨水貯留浸透技術協会の取組と雨庭性能の計算」／屋井裕幸（雨水貯留浸透技術協会）
15：00　話題提供３：「建築学会の蓄雨の提案から世田谷型雨庭に至る経緯について」／神谷博（法政大学エコ地域デザイン研究センター）

15：20　休憩

＜第二部＞「雨庭」の社会実装に向けた制度整備

15：30　報告1：世田谷区土木部豪雨対策・下水道整備課長 釘宮洋之／「世田谷区の雨水施策について」（仮）
15：45　報告2：東京都都市整備局都市基盤部調整課 課長代理（施設計画担当）二宮　佳大／「雨水しみこみプロジェクトについて」（仮）
16：00　報告3：国土交通省／「流域治水における流域対策の役割」（仮）
16：15　パネルディスカッション：「蓄雨の社会実装を考える」
コーディネーター：福岡
パネリスト：屋井、神谷、釘宮、二宮、山本
コメンテーター：国土交通省（水資源）
17：30　閉会